

“本屋大賞コンプリート”に参加しよう！

20 年間の大賞作品を読んで、記念の賞状をゲットしよう。
3つのステップでいますぐ参加！

下の QR コードから、「本屋大賞コンプリート用紙」をダウンロードしよう！

20 作品のコンプリートにチャレンジ！ 作品を読んだら、用紙の空欄にチェックしよう。チェックの入れ方は、シールを貼る、読み終わった日を書く、心に残った言葉を書くなど、各自お好きな方法で。ハッシュタグ #本屋大賞コンプリート をつけて、途中経過を SNS に上げ、みんなと進み具合をシェアしよう！



#本屋大賞コンプリート

20 作品全部読んだら、下の QR コードから「報告 & 賞状ダウンロードフォーム」へ。お名前と年齢を入力すると、記念の賞状がダウンロードできます。

実施期間 2023 年 4 月 12 日から 12 月末日

「本屋大賞コンプリート用紙」と「報告 & 賞状ダウンロードフォーム」は、こちらの QR コードから



本屋大賞の 20 年





本屋大賞は今年、
第20回を迎えることができました。
ここまで続けられたのは、読者の皆さまに
支えていただいたおかげです。
20回という節目を記念して、
歴代の大賞受賞作家の皆さまから
メッセージをいただき、
20年間のノミネート本リストとともに、
小冊子にまとめました。
この小冊子を通して、読者の皆さまとともに、
本屋大賞の歩みを振り返ってみたいと思います。

2023年4月
本屋大賞実行委員会

*各ページの2位以下の作品につきましては、
現在入手できる出版社名や文庫名を表記しています。

2004年第1回



□大賞『博士の愛した数式』

小川洋子◎新潮社／新潮文庫

20年経ってあらためて思う。

本屋は『偶然の祝福で』できている。

本屋での出会いは、必ず何かしらの祝福をもたらしてくれる。それに気づくのに、どれほどの時間がかかろうと、本はいつまでも待ってくれる。だから本屋へ足を踏み入れると、本たちが放つ静かな忍耐強さに包まれ、安らぎを得られるのだ。

小川洋子



- 2位『クライマーズ・ハイ』横山秀夫 文春文庫
- 3位『アヒルと鴨のコインロッカー』伊坂幸太郎 創元推理文庫
- 4位『永遠の出口』森 絵都 集英社文庫
- 5位『重力ピエロ』伊坂幸太郎 新潮文庫
- 6位『4TEEN』石田衣良 新潮文庫
- 7位『デッドエンドの思い出』よしもとばなな 文春文庫
- 8位『終戦のローレライ』福井晴敏 講談社文庫
- 9位『陰摩羅鬼の瑕』京極夏彦 講談社文庫
- 10位『ららら科学の子』矢作俊彦 文春文庫

この年は？ 「冬のソナタ」で韓流ブーム始まる。『ハリー・ポッター』第5巻、初版290万セット発売。

□ 大賞『夜のピクニック』

恩田 陸◎新潮社／新潮文庫

20年経ってあらためて思う。

本屋は『ココロの寄港地』できている。

人生という日々の航海の途中で、いつも本屋で錨を下ろしていた。この場所で、知識だったり経験だったり、気晴らしだったり慰めだったり、色々なモノを補給していた。ここでホッとひと休みできるから、また航海に出ることができるのだ。

恩田 陸



- 2位『明日の記憶』 荻原 浩 光文社文庫
- 3位『家守綺譚』 梨木香歩 新潮文庫
- 4位『袋小路の男』 絲山秋子 講談社文庫
- 5位『チルドレン』 伊坂幸太郎 講談社文庫
- 6位『対岸の彼女』 角田光代 文春文庫
- 7位『犯人に告ぐ』 雫井脩介 双葉文庫
- 8位『黄金旅風』 飯嶋和一 小学館文庫
- 9位『私が語りはじめた彼は』 三浦しをん 新潮文庫
- 10位『そのときは彼によろしく』 市川拓司 小学館文庫

この年は？ 愛・地球博（愛知万博）開催。「郵政選挙」で自民党が歴史的圧勝。

□ 大賞『東京タワー オカンとボクと、時々、オトン』

リリー・フランキー◎扶桑社／新潮文庫

20年経ってあらためて思う。

本屋は『揺らぎで』できている。

なにか、自分を見透かされるような、知と虚の欲求に爪を立てられるような。本屋という空間が漂わせる穏やかなる支配力は、いつの日も、私の気持ちを揺らし、戒めと、勇気を与えてくれる。

リリー・フランキー



- 2位『サウスバウンド』 奥田英朗 講談社文庫
- 3位『死神の精度』 伊坂幸太郎 文春文庫
- 4位『容疑者Xの献身』 東野圭吾 文春文庫
- 5位『その日のまえに』 重松 清 文春文庫
- 6位『ナラタージュ』 島本理生 角川文庫
- 7位『告白』 町田 康 中公文庫
- 8位『ベルカ、吠えないのか？』 古川日出男 文春文庫
- 9位『県庁の星』 桂 望実 幻冬舎文庫
- 10位『さくら』 西 加奈子 小学館文庫
- 11位『魔王』 伊坂幸太郎 講談社文庫

この年は？ トリノ五輪で荒川静香が金メダル。「六星占術によるあなたの運命」全7冊シリーズ、初版500万部発売。

□ 大賞『一瞬の風になれ』

佐藤多佳子◎講談社／講談社文庫

20年経ってあらためて思う。

本屋は『獲物だらけの山野で』できている。

豊かで美しく奥深い山野なのである。そこは、わくわくの狩り場である。同業の友人と、本屋で本を買うのはハントだねと熱く語り合ったことがある。買い物というよりは、狩り。視覚、嗅覚、触覚をとぎすませ、獲物を探し、手に入れる。書評や伝聞などの情報にはよらず、自分の感覚だけを頼る。獲物という本が目の前にたくさん実在する本屋でこそ可能な狩りだ。良い獲物をとれた時、狩人は満足し、執筆もうまういきそうな気持ちになる。 佐藤多佳子



- 2位『夜は短し歩けよ乙女』森見登美彦 角川文庫
- 3位『風が強く吹いている』三浦しをん 新潮文庫
- 4位『終末のフール』伊坂幸太郎 集英社文庫
- 5位『図書館戦争』有川 浩 角川文庫
- 6位『鴨川ホルモー』万城目 学 角川文庫
- 7位『ミーナの行進』小川洋子 中公文庫
- 8位『陰日向に咲く』劇団ひとり 幻冬舎文庫
- 9位『失われた町』三崎亜記 集英社文庫
- 10位『名もなき毒』宮部みゆき 文春文庫

この年は？ 団塊世代の大量定年退職が始まる(2007年問題)。ケータイ小説ブーム。

□ 大賞『ゴールデンスランバー』

伊坂幸太郎◎新潮社／新潮文庫

20年経ってあらためて思う。

本屋は『目に見えないもので』できている。

作者の考えや空想、書店員の思い、訪れた人たちの好奇心や悩み、時間の蓄積、そういった目に見えないものが書店には漂っている。気がする。 伊坂幸太郎



- 2位『サクリファイス』近藤史恵 新潮文庫
- 3位『有頂天家族』森見登美彦 幻冬舎文庫
- 4位『悪人』吉田修一 朝日文庫
- 5位『映画篇』金城一紀 角川文庫
- 6位『八日目の蟬』角田光代 中公文庫
- 7位『赤朽葉家の伝説』桜庭一樹 創元推理文庫
- 8位『鹿男あをによし』万城目 学 幻冬舎文庫
- 9位『私の男』桜庭一樹 文春文庫
- 10位『カシオペアの丘で』重松 清 講談社文庫

この年は？ リーマンショックで株価大暴落。米大統領選挙でバラク・オバマ候補が圧勝。

□ 大賞『告白』

湊かなえ◎双葉社／双葉文庫

20年経ってあらためて思う。

本屋は『地域全力応援団で』できている。

書店が賑わう地域には、未来への希望がある。ワクワク感を求めて書店に行くこともあるけれど、私の場合、生きがいや目標といった今の自分に足りない何か、その答えを探しに訪れることの方が多かったように思います。時にはPOPから、時には直接のアドバイスを受け、新しい道へのヒントを手に入れる。スタートの後押しをしてもらえる。店に入った時より元気になって出ていけるのは、誰かの人生を、全力で応援してくれる方たちがいるからです。

湊かなえ



- 2位『のぼうの城』和田 竜 小学館文庫
- 3位『ジョーカー・ゲーム』柳 広司 角川文庫
- 4位『テンペスト』池上永一 角川文庫
- 5位『ボックス!』百田尚樹 講談社文庫
- 6位『新世界より』貴志祐介 講談社文庫
- 7位『出星前夜』飯嶋和一 小学館文庫
- 8位『悼む人』天童荒太 文春文庫
- 9位『流星の絆』東野圭吾 講談社文庫
- 10位『モダンタイムス』伊坂幸太郎 講談社文庫

この年は? 16年ぶりの政権交代、民主、社民、国民新党による連立内閣が発足。新型インフルエンザ大流行。

□ 大賞『天地明察』

冲方 丁◎KADOKAWA／角川文庫

20年経ってあらためて思う。

本屋は『手触りで』できている。

本の重み、軽み、温もり、冷やかさ、硬さ、柔らかさ、ざらつき、すべすべ……。人が肌で得る感覚は電子的に再現するのがとてもムツカシイ。ほとんど不可能だろう。本は手で読むもの。ページをめくる、指でなぞる、ページの端を折る、線を引く、葉を挟む。読者へ本を「手渡す」本屋さんには本の手触りを届ける場所でもあると思います。

冲方 丁



- 2位『神様のカルテ』夏川草介 小学館文庫
- 3位『横道世之介』吉田修一 文春文庫
- 4位『神去なあな日常』三浦しをん 徳間文庫
- 5位『猫を抱いて象と泳ぐ』小川洋子 文春文庫
- 6位『ヘヴン』川上未映子 講談社文庫
- 7位『船に乗れ!』藤谷 治 小学館文庫
- 8位『植物図鑑』有川 浩 幻冬舎文庫
- 9位『新参者』東野圭吾 講談社文庫
- 10位『1Q84』村上春樹 新潮文庫

この年は? 小惑星探査機「はやぶさ」、7年ぶりに地球に帰還。Apple「iPad」日本発売。

□ 大賞『謎解きはディナーのあとで』

東川篤哉◎小学館／小学館文庫

20 年経ってあらためて思う。

本屋は『やさしさとむずかしさで』できている。

テレビ CM によると某頭痛薬の半分は「やさしさ」でできているらしいですよ。だったら、きっと本屋さんだって同じこと。半分は「やさしさ」でできているんでしょう。となると問題は残りの半分ですね。「やさしさ」とくれば次に大事なものは当然「むずかしさ」でしょう。間違いありません!! やさしいだけの読書じゃ、つまらない。ときには、むずかしい本を敢えて手に取り、背伸びした読書に挑むことも必要なはず。硬軟いずれも揃ってこそ本屋さんだと思います。

東川篤哉



- 2 位『ふがいない僕は空を見た』窪美澄 新潮文庫
- 3 位『ペンギン・ハイウェイ』森見登美彦 角川文庫
- 4 位『錨を上げよ』百田尚樹 幻冬舎文庫
- 5 位『シューマンの指』奥泉光 講談社文庫
- 6 位『叫びと祈り』梓崎優 創元推理文庫
- 7 位『悪の教典』貴志祐介 文春文庫
- 8 位『神様のカルテ 2』夏川草江 小学館文庫
- 9 位『キケン』有川浩 角川文庫
- 10 位『ストーリー・セラー』有川浩 幻冬舎文庫

この年は? 東日本大震災、原発事故で甚大被害。サッカー女子 W 杯で「なでしこジャパン」優勝。

□ 大賞『舟を編む』

三浦しをん◎光文社／光文社文庫

20 年経ってあらためて思う。

本屋は『愛と好奇心で』できている。

未知の世界、自分では思いもよらなかった世界とつながることのできる場所。それが本屋さんだと思います。私たちが本屋さんには足を運ぶのは、自分自身や他者を深く知り、考え、広い世界へと想像の翼を羽ばたかせたいからかもしれない、と。そのとき手助けしてくれるのが、POP や並べかたに工夫をこらして、本を我々に届けてくださる書店員さんです。本屋さんに行くたび、多くのひとの愛と好奇心が充満する場であることを感じ、胸が高鳴ります。

三浦しをん



- 2 位『ジェノサイド』高野和明 角川文庫
- 3 位『ピエタ』大島真寿美 ポプラ文庫
- 4 位『くちびるに歌を』中田永一 小学館文庫
- 5 位『人質の朗読会』小川洋子 中公文庫
- 6 位『ユリゴコロ』沼田まほかる 双葉文庫
- 7 位『誰かが足りない』宮下奈都 双葉文庫
- 8 位『ビブリア古書堂の事件手帖―菜子さんと奇妙な客人たち』三上延 メディアワークス文庫
- 9 位『偉大なる、しゅららぼん』万城目学 集英社文庫
- 10 位『プリズム』百田尚樹 幻冬舎文庫

この年は? 衆院選で自公圧勝、政権に復帰。『ONE PIECE』67 巻、日本出版史上最高の初版 405 万部発売。

□ 大賞『海賊とよばれた男』

百田尚樹◎講談社／講談社文庫

20年経ってあらためて思う。

本屋は『異世界への穴』できている。

SFの世界にはしばしば異世界への入り口というものが存在する。『不思議の国のアリス』のウサギ穴のようなものだ。しかしそれはSFに限らない。本屋もまた書棚の至るところに異世界への穴が潜んでいる。偶然にもその穴に落ちてしまった者は幸運だ。それまで見たこともなかった世界で、魅力的な人たちと出会い、胸躍る冒険を経験することになるからだ。そう、本屋は「異世界への穴」が集まった不思議なスポットなのだ。

百田尚樹



- 2位『64』横山秀夫 文春文庫
- 3位『楽園のカンヴァス』原田マハ 新潮文庫
- 4位『きみはいい子』中脇初枝 ポプラ文庫
- 5位『ふくわらい』西加奈子 朝日文庫
- 6位『晴天の迷いクジラ』窪美澄 新潮文庫
- 7位『ソロモンの偽証』宮部みゆき 新潮文庫
- 8位『世界から猫が消えたなら』川村元気 小学館文庫
- 9位『百年法』山田宗樹 角川文庫
- 10位『屍者の帝国』伊藤計劃、円城塔 河出文庫
- 11位『光圀伝』冲方丁 角川文庫

この年は？ 2020年夏季五輪・パラリンピック、東京開催決定。
特定秘密保護法成立。

□ 大賞『村上海賊の娘』

和田竜◎新潮社／新潮文庫

20年経ってあらためて思う。

本屋は『変人たちの情熱で』できている。

さすがにこんな嗜好や関心を持っているのは自分だけだろうと思っていると、本屋では、「何でおんなじ好みの人いんの？」と仰天させられたり、自分よりはるか先を行ってしまっている人の本たちが圧倒的な情報量と熱量で迎えてくれる。この感じ何だっけ。そうそう小学校でスターウォーズの外国プラモのこと教えてくれた友達に会ったときに似てんなあ。

和田 竜



- 2位『昨夜のカレー、明日のパン』木皿泉 河出文庫
- 3位『島はぼくらと』辻村深月 講談社文庫
- 4位『さようなら、オレンジ』岩城けい ちくま文庫
- 5位『とっぴんぱらりの風太郎』万城目学 文春文庫
- 6位『教場』長岡弘樹 小学館文庫
- 7位『ランチのアッコちゃん』柚木麻子 双葉文庫
- 8位『想像ラジオ』いとうせいこう 河出文庫
- 9位『聖なる怠け者の冒険』森見登美彦 朝日文庫
- 10位『去年の冬、きみと別れ』中村文則 幻冬舎文庫

この年は？ 消費税5%から8%に引き上げ。ソチ五輪で羽生結弦が金メダル。

□ 大賞『鹿の王』

上橋菜穂子◎ KADOKAWA / 角川文庫

20 年経ってあらためて思う。

本屋は『温もりと思い出で』できている。

注射を我慢したご褒美に買ってもらった本を抱えて帰った幼い日。お小遣いを握りしめ、文庫の棚を見て回るのが日課だった中高生の頃。その書店さんでアルバイトをして、書店の仕事の大変さと喜びを知った大学生の頃。恋人と書店で待ち合わせていた（ので、待っても、待たせても気にならなかった）若い頃。人生の道の上で出会った本たち、共に過ごした大切な人たちの面影——ネット注文では得られない温もりと思い出が、本屋さんにはつまっているのです。

上橋菜穂子



- 2 位『サラバ!』西 加奈子 小学館文庫
- 3 位『ハケンアニメ!』辻村深月 マガジンハウス文庫
- 4 位『本屋さんのダイアナ』柚木麻子 新潮文庫
- 5 位『土漠の花』月村了衛 幻冬舎文庫
- 6 位『怒り』吉田修一 中公文庫
- 7 位『満願』米澤穂信 新潮文庫
- 8 位『キャプテンサンダーボルト』阿部和重・伊坂幸太郎 新潮文庫/文春文庫
- 9 位『アイネクライネナハトムジーク』伊坂幸太郎 幻冬舎文庫
- 10 位『億男』川村元気 文春文庫

この年は? ラグビー W 杯で日本代表が、強豪南アフリカに勝利。
『火花』の発行部数、芥川賞受賞作で歴代 1 位に。

□ 大賞『羊と鋼の森』

宮下奈都◎文藝春秋/文春文庫

20 年経ってあらためて思う。

本屋は『人生のかけらで』できている。

どんな気分のときでも本屋さんの棚の間を歩いているといつのまにか本を手にとっていて、ちょっと顔を上げていて、よーし、もう少し生きていこう、と胸に勇気が湧いてくるのです。楽しい本ばかりではないのに、不思議です。暗い小説も、目を背けたくなるようなノンフィクションも、写真集も、参考書も、料理本も、コミックも、きっとすべてが人生のかけらです。いろんな人生のかけらに触れて、私たちは生きていく勇気を得るのだと思います。

宮下奈都



- 2 位『君の臍臓をたべたい』住野よる 双葉文庫
- 3 位『世界の果てのこどもたち』中脇初枝 講談社文庫
- 4 位『永い言い訳』西川美和 文春文庫
- 5 位『朝が来る』辻村深月 文春文庫
- 6 位『王とサーカス』米澤穂信 創元推理文庫
- 7 位『戦場のコックたち』深緑野分 創元推理文庫
- 8 位『流』東山彰良 講談社文庫
- 9 位『教団 X』中村文則 集英社文庫
- 10 位『火花』又吉直樹 文春文庫

この年は? バラク・オバマ大統領、被爆地・広島を訪問。スマホゲーム「ポケモン GO」世界各国で社会現象に。

□ 大賞『蜜蜂と遠雷』

恩田 陸◎幻冬舎／幻冬舎文庫

20年経ってあらためて思う。

本屋は『ココロの羅針盤で』できている。

そこに行けば、今世界で何が起きているか、何が問題になっているか、どんな雰囲気なのかを肌で感じることができる。自分が今何に興味を持っていて何に惹かれていのか確認することもできる。そして、次にどちらに向かって歩き出せばよいのかを決める羅針盤になってくれるのだ。

恩田 陸



- 2位『みかづき』森 絵都 集英社文庫
- 3位『罪の声』塩田武士 講談社文庫
- 4位『ツバキ文具店』小川 糸 幻冬舎文庫
- 5位『桜風堂ものがたり』村山早紀 PHP 文芸文庫
- 6位『暗幕のゲルニカ』原田マハ 新潮文庫
- 7位『i』西 加奈子 ポプラ文庫
- 8位『夜行』森見登美彦 小学館文庫
- 9位『コンビニ人間』村田沙耶香 文春文庫
- 10位『コーヒーが冷めないうちに』川口俊和 サンマーク出版

この年は？ 14歳の棋士、藤井聡太が29連勝の新記録。電子コミックスの売上、紙コミックスをはじめて上回る。

□ 大賞『かがみの孤城』

辻村深月◎ポプラ社／ポプラ文庫

20年経ってあらためて思う。

本屋は『未知への扉で』できている。

書店に並んだどの本も、開くとそれまで知らなかった場所に私をあっという間につれだしてくれる。遠い外国も、手が届かないはずの未来や過去も、他者の人生も、ページを開けば距離がなくなり、心も体もたちまちそこに吸い込まれる。いろんな世界への入口がたくさん並んで光る書店は、読者を未知なる旅へと誘う冒険の扉です。

辻村深月



- 2位『盤上の向日葵』柚月裕子 中公文庫
- 3位『屍人荘の殺人』今村昌弘 創元推理文庫
- 4位『たゆたえども沈まず』原田マハ 幻冬舎文庫
- 5位『AX アックス』伊坂幸太郎 角川文庫
- 6位『騙し絵の牙』塩田武士 角川文庫
- 7位『星の子』今村夏子 朝日文庫
- 8位『崩れる脳を抱きしめて』知念実希人 実業之日本社文庫
- 9位『百貨の魔法』村山早紀 ポプラ文庫
- 10位『キラキラ共和国』小川 糸 幻冬舎文庫

この年は？ テニス全米オープンで大坂なおみが初優勝。米朝が史上初の首脳会談。

□ 大賞『そして、バトンは渡された』

瀬尾まいこ◎文藝春秋／文春文庫

20年経ってあらためて思う。

本屋は『気になるもので』できている。

私にとって書店は大きな情報源だ。雑誌の表紙を見て最近こういう顔の男子が人気なのかと知り、ポップで今この作家さんがおもしろいんだと知る。最近、今まで以上にポップが気になっている。本屋大賞をいただいて、どれだけ書店員さんが本に思い入れがあり、工夫して伝えようとしているのかを思い知ったからだ。自分の本にポップをつけて下さっていると、この書店員さんと語り合いたいとうれしくなり、ひっそり置かれていると、この本だめでした？ としょんぼり聞きにいきたくなる。読者としても作家としても、本屋はいろいろ気になる存在だ。



瀬尾まいこ

- 2位『ひと』小野寺史宜 祥伝社文庫
- 3位『ベルリンは晴れているか』深緑野分 ちくま文庫
- 4位『熱帯』森見登美彦 文春文庫
- 5位『ある男』平野啓一郎 文春文庫
- 6位『さざなみのよる』木皿泉 河出文庫
- 7位『愛なき世界』三浦しをん 中公文庫
- 8位『ひとつむぎの手』知念実希人 新潮文庫
- 9位『火のないところに煙は』芦沢 央 新潮文庫
- 10位『フーガはユーガ』伊坂幸太郎 実業之日本社文庫

この年は？ 新元号「令和」に改元。消費税8%から10%に。ラグビーW杯日本大会、日本代表が8強入り。

□ 大賞『流浪の月』

風良ゆう◎東京創元社／創元文芸文庫

20年経ってあらためて思う。

本屋は『愛ある仕掛けで』できている。

長い時間が経って初めて気づく奇跡がある。出会いから数十年変わらず敬愛する神作家と出会った瞬間のこと。平積みされていたのかPOPだったのか、きっと若かったわたしの意識を留める本屋さんの仕掛けがそこにあったのだと思う。わたしは本屋さんのおかげで神さまと出会い、本を読む喜びを知り、今、作家になった。当時はそんなこと夢にも思わなかった。本屋さんには書店員さんの本に対する愛ある仕掛けと、その先に生まれる未来の奇跡があふれている。ありがとうございます。そして本屋大賞20周年、おめでとうございます。



風良ゆう

- 2位『ライオンのおやつ』小川 糸 ポプラ文庫
- 3位『線は、僕を描く』砥上裕将 講談社文庫
- 4位『ノースライト』横山秀夫 新潮文庫
- 5位『熱源』川越宗一 文春文庫
- 6位『medium 霊媒探偵城塚翡翠』相沢沙呼 講談社文庫
- 7位『夏物語』川上未映子 文春文庫
- 8位『ムゲンのい』知念実希人 双葉文庫
- 9位『店長がバカすぎて』早見和真 ハルキ文庫
- 10位『むかしむかしあるところに、死体がありました。』青柳碧人 双葉文庫

この年は？ 新型コロナ感染拡大、緊急事態宣言発令。コミック「鬼滅の刃」最終巻、初版395万部発売。

□ 大賞『52 ヘルツのクジラたち』

町田そのこ◎中央公論新社

20 年経ってあらためて思う。

本屋は『偶然と運命と必然で』できている。

ページというドアを開くだけで、人はどんな世界にもいける。数多の人生を歩めるし、無限の知を学べる。一生の友に出会い、師を知ることもある。しかし、自分にとってかけがえのないドアとどのタイミングでどう出会えるかは、分からない。本屋には、膨大なドアがある。偶然も運命も必然も揃っているのだ。

町田そのこ



- 2 位『お探し物は図書室まで』青山美智子 ポプラ社
- 3 位『犬がいた季節』伊吹有喜 双葉社
- 4 位『逆ソクラテス』伊坂幸太郎 集英社
- 5 位『自転しながら公転する』山本文緒 新潮文庫
- 6 位『八月の銀の雪』伊与原 新 新潮社
- 7 位『滅びの前のジャングリ』風良ゆう 中央公論新社
- 8 位『オルタネート』加藤シゲアキ 新潮社
- 9 位『推し、燃ゆ』宇佐見りん 河出書房新社
- 10 位『この本を盗む者は』深緑野分 KADOKAWA

この年は？ 大谷翔平、米大リーグの年間最優秀選手に。東京五輪、日本は史上最多の 58 メダル獲得。

□ 大賞『同志少女よ、敵を撃て』

逢坂冬馬◎早川書房

20 年経ってあらためて思う。

本屋は『偶然と意志で』できている。

本屋さんに行くとき、私は常に何を買うかを決めないことにしています。ネット通販が世のあまねし新刊を入手可能にして久しくなり、古本でさえ店舗に探しに行くよりはネットで探した方が見つかりやすい昨今、「思わぬ出会い」は実店舗にこそ満ちているように思えます。そして書店員の皆さんが、自らが売りたいと考える本を POP や展開を通じて売りだそうとする意志もまた、実店舗ならではの楽しみといえます。そのような「偶然と意志」との出会いを求めて、私は今後も本屋さんを訪ね歩きます。

逢坂冬馬



- 2 位『赤と青とエスキース』青山美智子 PHP 研究所
- 3 位『スモールワールズ』一穂ミチ 講談社
- 4 位『正欲』朝井リョウ 新潮社
- 5 位『六人の嘘つきな大学生』浅倉秋成 KADOKAWA
- 6 位『夜が明ける』西加奈子 新潮社
- 7 位『残月記』小田雅久仁 双葉社
- 8 位『硝子の塔の殺人』知念実希人 実業之日本社
- 9 位『黒牢城』米澤穂信 KADOKAWA
- 10 位『星を掬う』町田そのこ 中央公論新社

この年は？ サッカーW杯日本代表、強豪のドイツ、スペインを撃破。ロシア、ウクライナに侵攻。

2023年 第20回



□ 大賞『汝、星のごとく』

風良ゆう◎講談社

20年経ってあらためて思う。
本屋は『奇跡で』できている。

第20回という記念すべき年に本屋大賞をいただけることは、望外の喜びでした。3年前、コロナ禍で贈賞式が中止になったときの悲しみを、今でも昨日のこのように覚えています。ですが、わたしの小説を応援してくれている書店のみなさんの声は、ずっと届いていました。辛い思いをしているとき、いつも助けてくれたのはみなさんでした。これからも物語を書き続けることで、少しでも恩返しができる喜びです。



風良ゆう

- 2位『ラプカは静かに弓を持つ』安壇美緒 集英社
- 3位『光のところにいてね』一穂ミチ 文藝春秋
- 4位『爆弾』呉勝浩 講談社
- 5位『月の立つ林で』青山美智子 ポプラ社
- 6位『君のクイズ』小川哲 朝日新聞出版
- 7位『方舟』夕木春央 講談社
- 8位『宙ごはん』町田そのこ 小学館
- 9位『川のほとりに立つ者は』寺地はるな 双葉社
- 10位『#真相をお話します』結城真一郎 新潮社

20年経って、あらためて思う。

本屋は、**3つの“とき”の交差で**
できている。

本屋では、3つの「とき(現在・過去・未来)」が
交差していると感じる。何かに悩んでいる時には、本屋へ行く。

店に入った時に、紙やコーヒーの香りを感じながら
本の中を歩くと何故か気持ちが楽になるし、古き良い本から
未来を読み解く本までがお店に溢れている。

未来が見えなくなっていたあのとき、何かを求めて本屋に
立寄り、自分の心を勇気づけてくれる一冊に出会えた
セレンディピティを忘れることは無い。

そんな、「とき」が交差する空間を
演出してくれる書店員さんに心から感謝!

株式会社日本能率協会マネジメントセンター

代表取締役社長 張士洛

